



# 「やる気」を考える

現在、創学舎では、やる気について議論しています。講師がやる気について自分の考えを述べて、やる気について互いに考えています。まだ、議論は途中ですが、そこから様々なことが分かっています。今回はその内容に私自身の考えも併せて、やる気について考えてみたいと思います。

さて、やる気とは何でしょう。目に見えないものだからはっきりと分からないかもしれません。心の中または頭の中のことですから、形には見えません。しかし、やる気のある人というのは、見ても分かりやすいですね。そうです。やる気があると行動に表れるのです。つまり、やる気は気分です。やる気は、そのときの状況により変化します。やる気も、増えたり減ったりするし目に見えないのです。だから、やる気は行動で判断するとよいのです。

具体的に行動に触れる前にやる気について、もう少し考えていきます。

**やる気**を辞書で調べると「進んで物事を成し遂げようとする積極的な気持ち」となるそうです。やっぱり内面的なものです。

ところで、みなさんはやる気はどのようなときに出来ますか。ほめられたとき、誰かに認められたとき、危機感を感じたとき、結果を出せば褒美がもらえるとき。様々な場面でやる気が出ると思います。このやる気には、大きく分けて二種類あります。①外発的動機付けと②内発的動機付けとよばれるものです。動機とはやる気のことから、①外発的やる気の出かたと②内発的やる気

の出かたと思っても大丈夫です。①の外発的とは外からの刺激によってやる気が沸くことですね。褒美をもらえるからとか、叱られたからとか、ほめられたい、認められたいというのも入るでしょう。行動することの結果として何か得たり、認められたりすることが多いですね。逆に②の内発的とは、自分の中からやる気が湧き出ることです。〇〇ができるようになって楽しい。もつと△△をうまくやりたい、など現在の状況より先に進むことと自体を目標とすることが多いと思います。

創学舎では、自己学習能力の育成を目標にしています。自己学習能力をつけるには、すなわち内発的なやる気をもって生きていく力をつける、自分で自分の課題を見つけ、自分を成長させていくことができる、そのような人間の育成を目標にしています。私たち自身もそのような人間になれるよう努力していきます。

さあ、話を元に戻して、やる気は行動で判断することについて。よくある場面です。親に「勉強しなさい。」と言われ、「ああ、今やるうと思つたのに、やる気なくなつた。」と答える。経験あるでしょ。このとき、本当にやる気はありましたか。あつたとしたら、言われたらなぜやる気はなくなつたのですか。少し厳しいことを言うと、やらなくてはいけないことはわかつていたけど、やる気が出なくて気分が悶々としていた。そこに、親から、やるべきことに取り組めない自分を指摘され(痛いところを突かれ)、これ幸いとやれていないことを親に言われたせいにする。自分の弱いところを認めるのが怖くて、他人に責任を転嫁する(移す)。こんな心情が、意識する、しないにせよ働いているのではないのでしょうか。このとき、親はあなたの行動を見てやる気判断していたは



ずです。逆に言えば、やる気はあまりなかったけれど、やらなくてはいけないことがあつたので、机に向かつて取り組んでいたとしても、親はあなたのことをやる気がある、やる気が出てきたと思うのです。

この例は、他人に判断される場面でしたが、自分自身についても同様のことが言えます。

やらなくてはいけないことがある。やる気はあるが、面倒くさい。休憩してからしよう、ほかの事をやってからしようと、後回しにする。結局やらずに終わる、または、時間のない中であわててやる。これをやる気があると判断してはダメです。やらない、やれない自分に対する言い訳にすぎません。面倒くさいからやる気がでない、と言うのが正しい判断です。このとき、どうするといひのでしょうか。やる気はないけど、やるべきことをやる。毎日やると決めていることをやる。そう、やる気は気分の気、そんなものに左右されてはダメなのです。やらなくてはいけないことがある。行動に移す。行動しているうちに、できていく自分が分かり、やる気が出てくる。このようなサイクルを是非体感してほしいと思います。

受験勉強のように、長期間取り組まないといけないことがあると、人間です、サボりたいときや気分の乗らないときもあるでしょう。他に楽しい誘惑もあるでしょう。やる気を継続することは大変です。そこで、気分を良くするやるべきことを先にやる。そんな勇気を持つようになると思います。はいと思いませんか？ (松永)

## 塾講師の役割を考える

今になって中学生・高校生のころの自分は将来について何を考えていたのかと思うことがあります。実際はほとんど考えていなかったと思

いますが、それでも将来なりたい職業はありました。そのうちのひとつが獣医です。私が物心ついたときにはすでに家に犬、小鳥、猫等がいました。ペットが身近にいたのです。そして家で生まれ、家で死んだ猫もいました。そんなペットの最期を見ると、獣医になるという気持ちは自然に出てきました。もちろん勉強を真剣にしなかつたので、なることはできませんでしたが……。

塾講師に必要な役割に五者というものがあると言われています。学者、役者、芸者、易者、医者です。これらのどの要素が欠けても成り立たないこの職で、私は最近医者の部分を強く意識しています。



例えば数学で文章題がわからない生徒が多数いたとします。生徒は一人ひとり違いますからその原因も様々です。ある生徒は問題文を読み込めず、立式ができない。またある生徒は立式のときの図や表や絵を上手に使えない。また別の生徒は立式はできるのに、計算ミスが多く正解にたどり着けないといった具合です。そこに生徒一人ひとりの気質が加わります。面倒くさがつて図や途中式等を書かない。逆に極端に几帳面で、省略してもいい部分をいつまでも省略しない。あるいは解答の書き方が雑で何度もミスをしているのに直そうとしない等……。

これらの様々な要因をしつかりと分析し、その生徒に合ったアプローチをしていけば、少しずつ生徒の成績は上昇し、勉強に向かう姿勢も少しずつ良くなっていく。それにはとにかく根気強く生徒を後押ししていく必要があります。集団の中でもできる限りやっています。

そうして卒業していった生徒が、後日自分の将来に向かって邁進しているのを聞くと大変うれしくなります。そんな経験をまたしたいと思っ  
ています。  
(岡本)

# 秋

暑苦しい夏が過ぎ、季節はもうすっかり秋ですね。私の故郷の秋田ではそろそろ稲刈りの時期です。新米のあきたこまちは、まるで私のお肌のように真っ白で艶々しています。みなさんもぜひ食べてみてください。



さて、みなさんは「秋」と言われて真っ先に何を思い浮かべますか? 「食欲の秋」、「運動の秋」、「読書の秋」。秋は何をするにも最適な季節と言えるのではないのでしょうか。

冒頭であきたこまちの話をしましたでしたが、私「秋」から真っ先に連想するのは「食欲の秋」です。「食」という字は「人を良くする」と書きます。美味しいものをみんなで食べると、自然とみんな笑顔になりますよね。「食べる」という行為は私たちの身体はもちろん、心まで健やかに育んでくれるのです。また、秋が旬のサンマはDHAが豊富で、食べると頭が良くなると言われています。秋の味覚であるキノコには風邪予防に効果があるビタミンが豊富です。健康管理にはもってこいの食材ですね。受験生のみならず、サンマとキノコをモリモリ食べて受験勉強頑張りましょう。

とは云うものの、いくら食欲の秋だと言っても食べればかりだと、ぶくぶく太ってしましますよね。それだとかえって不健康です。そこで「運動の秋」も実践してみたいかがでしょう

か?暑い夏とは違い、熱中症や日射病の危険も少ない秋は運動にも最適です。秋のにおいを感じながらジョギングをするのが気分爽快ですよ。塾生のみんな、勉強中に眠くなったらその場で腕立て伏せをしましょう。交感神経が刺激され、きつと眠気も覚めるはず。

ところでみなさんは「四季の歌」を知っていますか? 「はーるを愛するひーとーはー」から始まる歌です。その歌の歌詞では「秋を愛する人は心深き人」となっています。みなさん! 秋を愛するには心が深くないといけないのです! どうしましょう? 私もだいたい浅はかな人間なのでピンチです。

そこで今度は「読書の秋」。本をたくさん読んで「深き心」を手に入れましょう。とは言っても、なにも難しい本を読む必要はありません。今から難しい本を読んだって読書が苦痛になるだけで何の意味もないと私は思います。まずは好きな本、興味がある本を読んでみてください。



世間で「良書」と言われる本がありますが、老若男女、すべての人にあてはまる「良書」など存在しないのではないのでしょうか。それはある年齢層の人々にとつての「良書」であり、ある境遇の人々にとつての「良書」なのです。そういった本には、みなさんがその「適齢期」になったときに出会えればいいのです。今は恋愛小説を読んでドキドキしたり、推理小説を読んでハラハラしたりしてください。それも必ずみなさんの血となり肉となることでしょう。

最後に、受験生のみなさん。みなさんにとつては「勉強の秋」ですよ。素直に、ひたむきに、ガッツを出して、実り多き秋にしましょう。  
(高寺)

## 創学舎に通ってこれるみなさんへ

●みなさんは知っていますか?いつも使っている創学舎オリジナルテキストについて。

●緑色は「国語」、青色は「数学」、桃色は「英語」、紫色は「理科」、黄色は「社会」。今回は、各教科のテキストがどのように、みなさんの手元に届くのか、お伝えしたいと思います。

●まず、創学舎の講師達は、各科目の研修で、様々な単元をどのように教えていくかを決めます。その話し合いは、数えると、五十分×月八回、四〇〇分。一つの単元で少なく見積もっても、この位、時間をかけて作られているのです。単元を考えたら、一冊のテキストを作るのにどのくらい時間をかけているか、想像してみてください。全体での話し合いの前に、みなさんも大好きであろう、各教室の室長が、日夜、「どうしたら、みなさんが、使いやすいか?」「どう教えたなら、頭に入りやすいか?」と試行錯誤しているのです。

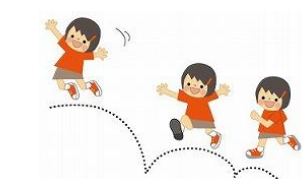
●中身が、出来上がると、大量に印刷する前に、各教科の講師が、文字に間違いはないか、チェックをします。テキストの種類が多い科目ほど、チェックも大仕事になります。

●無事にチェックを通過すると、やっと印刷です。これも、事務スタッフの方々の協力で、毎回きちんと印刷されてきます。印刷も、決めることが多いのです。印刷の指示書通りに、女性のスタッフの方々が、一生懸命印刷をしてくださっています。印刷機の音を、聞いたことがある人も多いと思います。

●印刷が、終わると、「製本」です。印刷された、用紙をきちんとした「本」にする作業です。これも、かなり大変な作業です。テキストごとに、

枚数を数え、表紙をつけ、背表紙をつけ、とても大きなホッチキスでとめていきます。私も何度か、教えてもらい、使いましたが、とても大変です。女性のスタッフが、全身でホッチキスを押さないと、あの分厚いテキストをとめられません。そんな作業を、何十冊、何百冊と、コツコツと丁寧に仕上げてください。

●こうして、やっと一冊のテキストが出来上がっているのです。みなさんの中には、テキストをなくしてしまったり、乱暴に扱ったりする人がいます。また、時には、「この問題、わからない!むかつく!」とテキストにあたっていても、問題が難しいとおもってこそ、いいテキストなのです。よく問題を見返してみてください。いきなり、難しい問題を、みなさんに突き付けているわけではありません。一つずつ、「スモールステップ」を踏んで、みなさんの脳をしっかりと使ってもらおうテキストなのです。ですから、一つの問題に、しっかりと向き合って、逃げずに取り組んでほしいと思います。何事も、逃げて、また同じ場面に直面します。逃げて、逃げて、追ってきます。だから、勇気をもって、向き合ってください。怖がっていたよりも、大したことではないかもしれません。



●みなさんが、いつか自分で決めた第一志望校に合格して、創学舎のテキスト良かった、と感じてもらえるように、講師、スタッフ一同、今日も頑張ります!みなさんも、大変な毎日だと思いますが、元気に創学舎へ来てくださいね。  
(関野)

▼▲継続希望の方へ▲▼  
▶ 退塾や転校等で創学舎を離れた方にも、ご希望があれば創学舎ニュースを無料でお送りいたします。  
▶ 在籍していた教室までご連絡ください。